

【協会情報】

鉛酸カルシウムさび止めペイントの廃止について

亜鉛めっき鋼板を用いた鋼製建具やシャッター製品に使用する「鉛酸カルシウムさび止めペイント（JIS K 5629）」は、鉛含有塗料廃絶の一環で平成 28 年版 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）及び同改修工事標準仕様書、同木造工事標準仕様書の適用から削除され、その代替塗料として、鉛を含有しない塗料として日本塗料工業会規格JPMS28「一液形変性エポキシ樹脂さび止めペイント」が採用されております。

それに伴い、JIS K 5629 の規格の廃止申請が進められるとともに、本製品の生産中止も進められております。

つきましては、平成 25 年版以前の公共建築工事標準仕様書（建築工事編）及び同改修工事標準仕様書、同木造工事標準仕様書の適用物件においても、日本塗料工業会規格JPMS28「一液形変性エポキシ樹脂さび止めペイント」の使用にご理解をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

次に一般社団法人 日本建設業連合会に対して、一般社団法人 日本塗料工業会、日本サッシ協会、日本シャッター・ドア協会が提出した「鉛酸カルシウムさび止めペイントの廃止計画と代替塗料のご案内」を添付いたしますので、併せてご覧いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

平成 28 年 4 月吉日

一般社団法人 日本建設業連合会 御中

一般社団法人 日本塗料工業会

一般社団法人 日本サッシ協会

一般社団法人 日本シャッター・ドア協会

鉛酸カルシウムさび止めペイントの廃止計画と代替塗料のご案内

貴連合会ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

早速ですが、表題の件に関しましてご連絡申し上げます。

既にご承知の通り、鉛含有塗料廃絶については、2002年ヨハネスブルグサミット以降、国際的な動きの中で「2020年までに達成する」ことを目標に各国で進められています。（詳細背景等は日本塗料工業会発行パンフレット「鉛含有塗料に関するお知らせとお願い」をご参照ください。）

国内において貴連合会が関係する建築物塗装工事での鉛含有塗料は、亜鉛めっき鋼板を用いた鋼製建具に使用する「鉛酸カルシウムさび止めペイント（JIS K 5629）」だけが引き続き使用されていました。この間、日本塗料工業会では、日本サッシ協会／日本シャッター・ドア協会の協力のもとで検討を行い、代替となる仕様を確立することができ、平成 28 年版公共建築工事標準仕様書及び同改修工事標準仕様書に採用される運びとなりました。

以下、代替塗料のご紹介と鉛酸カルシウムさび止めペイントの廃止についてご案内申し上げます。

—記—

1. 代替塗料について

上記 3 団体共同で代替検討を実施した結果、作業性や塗膜性能などバランスの取れた品質として「1液形変性エポキシ樹脂塗料」を選定しました。

本代替品は、日本塗料工業会規格 JPMS 28「一液形変性エポキシ樹脂さび止めペイント」として制定され、平成 28 年版公共建築工事標準仕様書（建築工事編）及び同改修工事標準仕様書に採用されました。今回の標準仕様書改定に伴い、塗装を行う亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえについて、鋼製建具等に使用する亜鉛めっき鋼板ではクロム酸処理が削除されました。（ただし、塗装鋼板等は除く。）また、現場で鉛酸カルシウムさび止めペイントを塗装する際に化学処理として使用していたエッチングプライマー（クロム酸塩含有）が不要となったことも併せて、鉛・クロムフリーの仕様が確立されました。

※JPMS 28 規格内容は、日本塗料工業会のホームページにて公開しています。

なお、本代替品は主要塗料メーカー各社で商品化されており、供給体制も問題ありません。

上塗り適合性・価格等についての問い合わせは、各メーカーにお願いいたします。

2. 鉛酸カルシウムさび止めペイントの廃止について

前述の通り、標準仕様書から鉛酸カルシウムさび止めペイントが削除されたことに伴い、併行して経済産業省に対して JIS K 5629 の廃止申請を進めています。

一方、本塗料の生産中止時期については、原材料（鉛酸カルシウム顔料）の供給体制や塗料使用者側（ユーザー）との兼ね合いもあり、早まることも考えられますので、早めに塗料メーカーにご相談の上、検討を進めていただく必要があると認識しています。

以上、ご案内いたします。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成 28 年 10 月 吉日

一般社団法人 日本建設業連合会 御中

一般社団法人日本塗料工業会

一般社団法人日本サッシ協会

一般社団法人日本シャッター・ドア協会

鉛酸カルシウムさび止めペイントの JIS 廃止の件

貴連合会ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

早速ですが、表題の件に関しましてご連絡申し上げます。

既にご承知の通り、平成 28 年版公共建築工事標準仕様書及び同改修工事標準仕様書から「鉛酸カルシウムさび止めペイント (JISK5629)」が削除されました。

それに伴い経済産業省に対して、一般社団法人日本塗料工業会より JISK5629 の廃止申請を進めておりましたところ、日本工業標準調査会にて審議 (本年 9 月 26 日) の結果、JIS 廃止の答申が出されました。答申後は、11 月末日を目途に、官報にて JISK5629 の廃止が公示される見通しです。

廃止公示後は、JIS 製品としての「鉛酸カルシウムさび止めペイント」の製造ができないため、塗料メーカーの在庫が無くなり次第、供給が停止します。更に一部塗料メーカーでは、既に 10 月末日をもって本品の製造を終了する旨を各納入先へ通知しております。

上記状況により、平成 25 年版公共建築工事標準仕様書及び同改修工事標準仕様書が適用されている建築工事では、ドア及びシャッター等のスチール建材製品の生産・出荷に大きな支障が生じます。

つきましては、代替品として平成 28 年版公共建築工事標準仕様書及び同改修工事標準仕様書に採用されております、日本塗料工業会規格 JPMS28 「一液形変性エポキシ樹脂さび止めペイント」のご採用を早急にご検討願います。

なお、本代替品は主要塗料メーカー各社で既に商品化されており、供給体制は整っています。上塗り適合性・価格等については、各メーカーにお問い合わせ願います。

以上、ご案内いたします。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。